



No.98 2020.12.23

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課



コミスク TwitterQR

地域支援者連絡会議 連携・協働を体感！！

地域支援者連絡会議って何？と思われるかもしれませんが。昨年度よりコミュニティ・スクールの関係で学校教育課も参加させていただいている庁内の連絡会です。コミュニティ・生涯学習課、明石コミュニティ創造協会、明石市社会福祉協議会、明石市地域共生社会室、そして学校教育課と地域に関係する部署が集まって情報交換し、連携・協働していこうという会議です。コミュニティ・スクールを担当しているといっても、学校の視点からしか地域を見てこなかったもので、参加しはじめた頃は何がなんだか全くわからず、飛び交う用語も・・・といった感じでしたが回を重ねるごとにだんだんとバラバラに見えていたものがつながって見えてくるようになりました。また、連絡会の中でもコミュニティ・スクールは未来を創り地域を支えていく子どもたちを育てることを通して地域の人がつながっていく仕組みだということが少しずつ理解していただけるようになってきたのではと思っています。話をすることで、目指しているゴールは同じで、それぞれの部署が進めている施策のねらいが見え、重なってくる部分もあるということが共有されてきたのではと思います。

地域支援者会議が縦割りの壁を取り除いていっているように思いました。なんだかこうした場を重ねることが、自分自身が連携・協働とはを体感しているように思います。

もったいないをありがとう ～1枚のチラシから世の中をみると～

フードドライブにご協力ください!

2021年1月13日(水)～15日(金) 10:00～17:00

参加店舗: コープ大東店、コープ大久保店、サービスコーナー、コトニクス、コープ大久保店、コープ大久保店、サービスコーナー

食品ロスとは?

1/3が廃棄

612万円

食品ロス、こんな問題点も

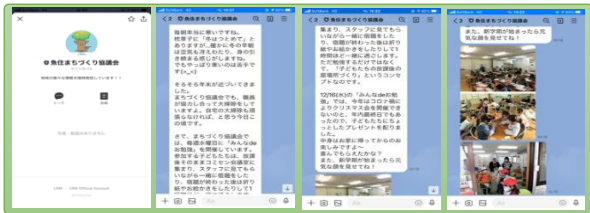
もったいない! まだ食べられるのに捨てられる食品は、年間約16,870トン!

地域支援者連絡会議の中で社会福祉協議会さんより「フードドライブ（家庭で余っている食品を必要としている人へ寄附する取組み）」の活動を紹介していただきました。こうした活動があるということを知り、活動に参加してみることで、自分が住んでいる地域社会に目を向けるきっかけになるのではと思いました。そして、1枚のチラシからどんなことが読み取れるか、そして何ができるのかを考

えていくことがこれから求められている力であり、こうした素材を子どもたちの探究に深めていくことが、前号で紹介した1996年中教審でいわれた「生きる力」を養っていくための「ゆとり」ではないかと考えます。ちょっとだけでも対話することから始まり、子どもたちの視野が広がっていけばいいなと考えています。

LINE公式アカウント

地域支援者連絡会議でまちづくりの最前線での情報発信のツールとして「LINE公式アカウント」が使われるまちづくり協議会さんや中学校コミセンさんが増えてきているという報告がありました。LINEは幅広い年代で使われており、ホームページを見に行かなくても、登録さえしておけば、情報が手元のスマートフォンに届くのでとっても便利だという声をよく耳にします。これから「LINE公式アカウント」などSNSは、情報発信



だけでなく、地域の中でのつながりの手段として活用していかないといけないんだと感じました。

「LINE公式アカウント」を活用されている魚住まちづくり協議会さんは、日々の活動の様子や行事の案内等の情報を発信されています。この日は今学期最後の「みんなde勉強」の様子が届きました。

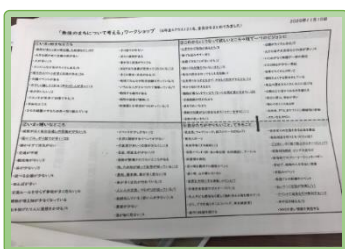


また、朝霧コミュニティ・センターさんは、開催された講座の様子をメインにコミュニティ・センターでの活動の様子や、講座の案内を発信されています。この日届いたのは「地域の歴史と文化を学ぼう」の講座の様子が届きました。中学校コミセンの講座は内容も幅広いので、こうした講座に小学校の高学年や中学生も参加できたら面白いのになと妄想が広がってしまいます。登録しておくだけでこうした情報が届くのも便利だなとつくづく感じました。

また、朝霧コミュニティ・センターさんは、開催された講座の様子をメインにコミュニティ・センターでの活動の様子や、講座の案内を発信されています。この日届いたのは「地域の歴史と文化を学ぼう」の講座の様子が届きました。中学校コミセンの講座は内容も幅広いので、こうした講座に小学校の高学年や中学生も参加できたら面白いのになと妄想が広がってしまいます。登録しておくだけでこうした情報が届くのも便利だなとつくづく感じました。

6年国語科教材「町の幸福論」

今回の地域支援者連絡会議では、魚住小の6年生の「町の幸福論」の授業で魚住まちづくり協議会さんが出前授業をされたことも話題になりました。まち協の事務局さんがゲストティーチャーとして①まち協の活動紹介②まちづくりについて考えるワークショップ③グループごとの発表と各クラス3時間の授業が行われたそうです。そのワークショップでは、意見が言いやすい環境づくりや、集団での思考を可視化・整理するための手法である「田の字法」が用いられるなど、まちづくりの中で培ってきたノウハウが授業で活かされたようです。また、そのワークショップで出てきた子どもたちのアイデアをまとめ、まち協さんの会議でも紹介され、連携の必要性を再認識されたそうです。松が丘小でも松が丘サミットとして



「町の幸福論」も取り込んだ教科横断的な単元を組んでおり、この教材は年間の中で地域連携をデザインすることで子どもたちが地域の中で力試しする場を創り出す可能性がある教材だと考えています。そのためには年度当初からこの教材をどう活用するかを地域の皆さんと対話していくことが必要であり、そうした対話が「地域に開かれた教育課程」への一歩になるのではと思います。

そこで、6年国語科教材「町の幸福論」の活用を皆さんで対話し、来年に備える場も考えています。

（文責：北本）